

自衛隊OBの皆さんへ

現役時代に老朽化した施設の改修要望を出しても、施設改修の予算が付かず苦労しましたね。雨が降れば雨漏り対策でシートをかけてカバーしたり、雨漏り位置にバケツを置いたり、台風が来たら各箇所の補強しながら基地機能を維持してきました。大きな地震が来たら、**神に祈る以外に対策なし**の状況が、自衛隊施設の実態でした。

昨年から、安倍元総理大臣の意向もあって自衛隊施設の強靱化に関して本格的に検討され、実現の運びになりました。

耐震基準措置未済の施設が自衛隊施設の4割を占めており、古い隊舎は倒壊又は機能不全に陥る可能性が多くありました。災害発生時に国民を護る自衛隊員が老朽化した隊舎に閉じ込められたり、負傷したりしたら大変なことになります。

自衛隊が発足して初めて大掛かりで多額の予算を確保できたので、今までの不具合を全面的に解消する絶好のチャンスです。また、世界標準の軍事組織として**最低限の防御機能**を保持できるように施設を強靱化することができます。

また、自衛隊施設の強靱化計画と施工状況が外部（特に敵国）に漏洩した場合、自衛隊施設の弱点も露呈する結果になります。一方、工事中に敵スパイが入り込んで、施設に盗聴器や監視装置に通信機能を付与する等の不法行為も可能になります。米軍は、米国陸軍工兵隊（34,600人の軍属、650人の軍人）が軍事施設の設計、施工管理を担当しています。民間企業に設計から施工管理まで任せて軍事施設を設計・施工管理するのは日本だけ？

せめて、設計・施工管理の段階で信頼できる自衛隊OBが関与することは不可欠です。自衛隊OBで、自衛隊施設の強靱化に設計、施工管理、現場作業、後方支援等に参加する方を募集する計画です。（財）災害支援財団が指定する企業に正社員として雇用）

一方で、馬毛島で航空自衛隊の施設（航空自衛隊の馬毛島基地：仮称）の工事が4月から既に始まっています。参加する作業員に外国人はNG、身元の明確でない人材はNGとなっており、要所には自衛隊の任務を理解し信頼できる人材（自衛隊OB）の配置が必要です。

現状は、モラルの低い作業員が増加しており、作業員による酒の事故と喧嘩等が多発して治安が悪化しているため種子島住民が不安を感じています。

現在は約1,000人の作業員ですが、来年の2月以降に最大6,000人の作業員が集まるので、更なる作業員の質の低下が少子高齢化の進んだ2万人余りの住民に不安を与えています。

以上のことから、馬毛島基地建設に伴う各種作業に規律正しく、組織的に活動できる多くの自衛隊OBの参加が希望されています。

馬毛島の基地建設も自衛隊と米軍が活用することから抗堪性と秘匿性が重視されるので、米軍のように現役隊員（工兵隊）の参加は難しいが、せめて、自衛隊OBの全面的な協力と作業への参加が望まれています。

ボランティアではなく、適正な報酬を得て国防に貢献しながら地域安全の維持活動です。知人・友人を通じて頑張ってみようという自衛隊OBに、この情報を伝えてください。給与等、処遇の細部については、一般財団法人災害支援財団に問い合わせして下さい。

info@dsf-j.org HP : <https://dsf-j.org/> （参考：お知らせ、7月10日）